

## 1. た・づ・な

# 『久々のご挨拶』



日本中央競馬会

理事 西村 啓二

新年明けましておめでとうございます。

平成 18 年 9 月から生産育成対策を担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。3 年半前、BTC ニュースに「トレーニングセンターの現場から」という拙文を載せていただいたことがあります。

10 年程前、日高育成総合施設の整備の過程を見る機会が何度もありました。その後栗東・美浦の両トレーニングセンターで勤務し、周辺の牧場の状況をも見てまいりました。今回久しぶりに日高育成総合施設や民間の育成牧場を訪れることができ、その変貌ぶりに驚いています。トレーニングセンター周辺の施設の充実と相俟って、個々の馬の資質を十分に引き出せる態勢が出来つつあります。

BTC 周辺には数多くの育成業者の馬房が立ち並び、BTC との間を行き来する人馬を眺めていると、その活用のノウハウもほぼ出来上がったんだなあという印象を持ちました。民間施設についても大規模なものがあちこちに出現し、「育成」という業種が確立されたように感じられます。

生産・育成のステージでは、それに直接携わる人々のほかに獣医さんや装蹄師さん、その他栄養管理の専門家・土壌分析をする人・馬具を扱う人など多様な連携が必要です。私が知っている限りでは、10 年前には手薄の感があった装蹄師さんについてはかなり充足されてきたと思っていますが、その他の分野ではどうなのでしょう？ 昨年から始まっている軽種馬協会の「軽種馬経営高度化指導研修事業」では生産地のいろいろな要望に対して応えられる態勢づくりを目指しています。この事業を大いに有効に利用していただきたいと思っております。

生産・育成の場で基礎づくりなされた馬がトレーニングセンターやトレセン周辺の牧場に移動する場合、個々の馬の生産・育成データがきちんと伝えられなければなりません。現在でも相応の工夫がなされているとは思いますが、伝達すべき情報を体系的に整理する必要があるのではないのでしょうか。せりなど

で開示される情報に加え、ブレイキングの状況や育成の進度、気性・癖、飼料や飼料添加物の給与状況など伝えるべき内容はたくさんあると思われます。生産・育成地とトレーニングセンター及びその周辺にハードとソフトが完備され、それを結びつけるラインが確保される・・・既にそういう形が完成したところがあるかも知れませんが、大勢の関係者がそういう方向を目指すとなれば、近い将来イギリスでフランスでアメリカでドバイで、またあの興奮が呼び起こされるのは夢であるはずがないと思っています。

中央競馬も下げ止まりと思われたのもつかの間、平成18年夏あたりから再び下降の兆候を見せています。ファンに興奮を与えられなければ競馬は衰退の一途です。JRAも打てる手はすべて打つという気持ちでおります。関係者の方々の応援・協力を是非ともお願いいたします。

